

人物紹介

「識字学校」や受講生との  
 かかわりを通して、  
 自分自身をエンパワメントする



ながお ゆり さん  
 長尾 由利さん

大学卒業と同時に生まれ育った四国を離れ、大阪府内の自治体に就職。青少年施設で24年間、子どもたちにかかわった。その後、地域の「識字学校」と、在日外国人同士の交流の場「国際広場もめん」を担当することに。

識字との出会いは、大学1回生の時。先輩に誘われて参加した集会での「識字学習者」の報告は、「自からうろこ(が落ちた)」だった。

「識字学校」にかかわりながら、自信を得た多くの受講生の姿を目の当たりにした。識字の一滴交流会に参加した受講生は、「来年は自分が生い立ちを発表する」と他の参加者らを前に約束。まとめた文章をよりスムーズに発表する学習を、1年かけて積み重ねた。「うれしかったのは識字の仲間がはげまし続けてくれたことです。受講生同士の強い絆を感じました」

別の受講生は「識字学校」で学んで約10年。今年の3月にPTAや市民の前で話す機会があった。「識字を得て、自信をもって自らが発表する。日頃の地道な積み重ねがあつての姿です。まさにエンパワメントではないでしょうか」

今年の3月、定年を前に早期退職。今は、ボランティアとして、「識字学校」にかかわる。真剣な眼差しで学習に取り組む受講生たちを温かく見守りながら、「私自身、『識字』に出会い、かかわったことで、自信や誇りを持って生きることの素晴らしさを学びました。そのことが自分自身のエンパワメントにつながりました」。さらに、「一人でも多くの市民に識字を知ってもらうことで、その輪を広げていきたい。それによって識字にかかわる人が増えてくれれば…」。微笑む目が輝いた。